

「保護林設定管理要領」の 設定基準に満たない保護林

平成28年12月16日
林野庁 九州森林管理局
計画保全部 計画課

綾森林生態系保護地域

【設定年月日】平成20年3月25日

【面積】1,167.5ha

【設定当時の森林概況】

択抜等過去に人為の加わった林分では、樹齢80～90年の照葉樹林を形成している。一方、人為が加わらなかった照葉樹林は、主尾根から綾北川にかけての一带と、主尾根から大吊り橋にかけて及び川中神社の西側の一带で、樹齢120～180年の巨樹・巨木が生育する照葉樹林となっている。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成23年10月～11月

【調査結果(被害状況等)】

シカ被害状況は、ha当たり約680本に被害が確認された。被害はヤブツバキやサカキ、イスノキ等の2m以下の低木の枝葉食害が8割を占め、高木ではアオハダやソヨゴ等の樹皮剥ぎ、ツガ等の角擦りが確認された。被害の9割は古い痕跡で、5割強は軽微であったが、1割は致命的であった。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

ニホンジカによる低木層等への被害が見られる。



林内の状況(スダジイの板根)

小石原林木遺伝資源保存林

【設定年月日】昭和63年3月31日

【面積】4.7ha

【設定当時の森林概況】

林相は、行者スギは、老齢なもの樹齢約500年、現存林分の大部分を構成するもの樹齢約200～300年と推察されている。

スギの中には平成12年4月「森の巨人たち百選」に選ばれた「大王スギ(行者の父)」がある。近傍には「行者スギ植物群落保護林」があり、その保全保護が図られている

直近のモニタリング調査結果

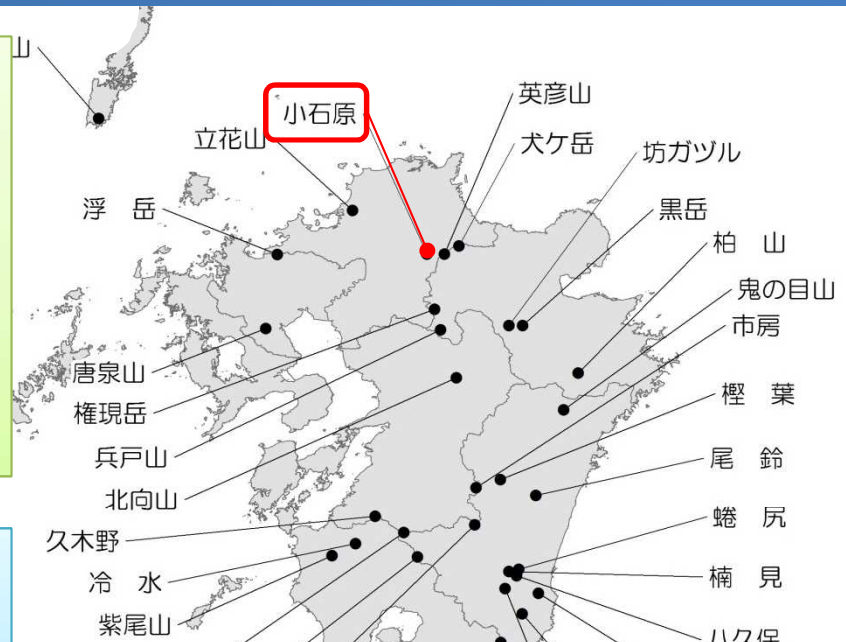
【調査年月】平成24年11月

【調査結果(被害状況等)】

シカによる森林被害状況は、低木への食害や不嗜好性植物の優占等が確認されることから、シカの食害が拡大している地域と考えられ、森林の階層構造や種組成への影響が懸念される。

森林管理(支)署等による現況把握

今後状況把握を行う予定。



林内の状況

青井岳林木遺伝資源保存林

【設定年月日】平成2年3月31日

【面積】1.0ha

【設定当時の森林概況】

林相は、スギ人工林が大部分を占めているが、保存林内のイヌノキ、ツブラジイ、タブノキ等の林齢は150年生以上の照葉樹林となっている。また、カヤの巨木(樹齢推定500年・幹回り470cm・樹高30m)がある。

カヤ巨木は、平成12年4月に「森の巨人100選」、また、平成4年3月に「宮崎巨樹百選」に選ばれている。

直近のモニタリング調査結果

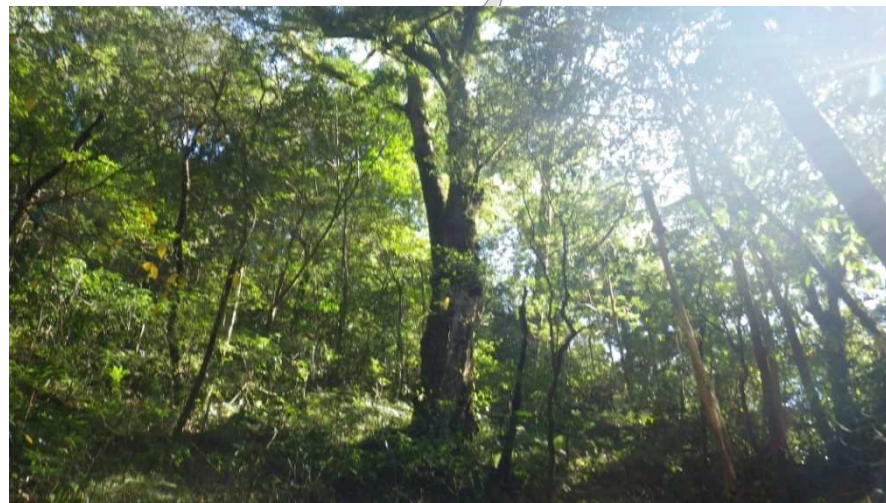
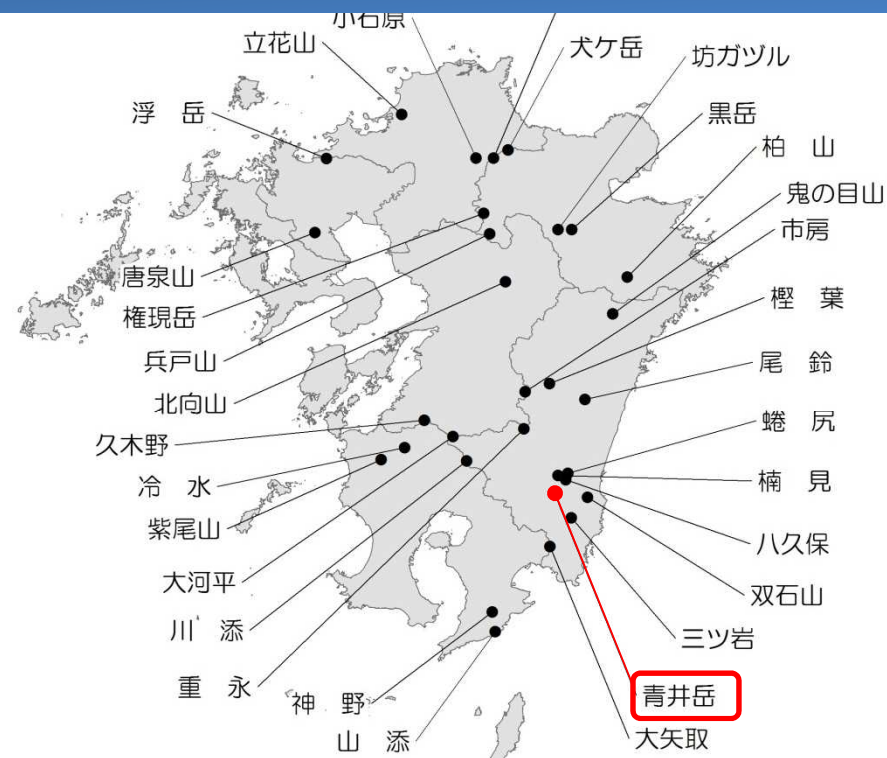
【調査年月】平成23年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

カヤの後継木は見られず、実生が生育しているものの他の植物による被圧を受けていた。

森林管理(支)署等による現況把握

今後状況把握を行う予定。



林内の状況

楠見林木遺伝資源保存林

【設定年月日】平成2年3月31日

【面積】4.7ha

【設定当時の森林概況】

林相は、スギ人工林が主で、スギ林に囲まれてイチイガシの広葉樹林がある。以前はイチイガシの母樹林として種子の採取が行われていた。

直近のモニタリング調査結果

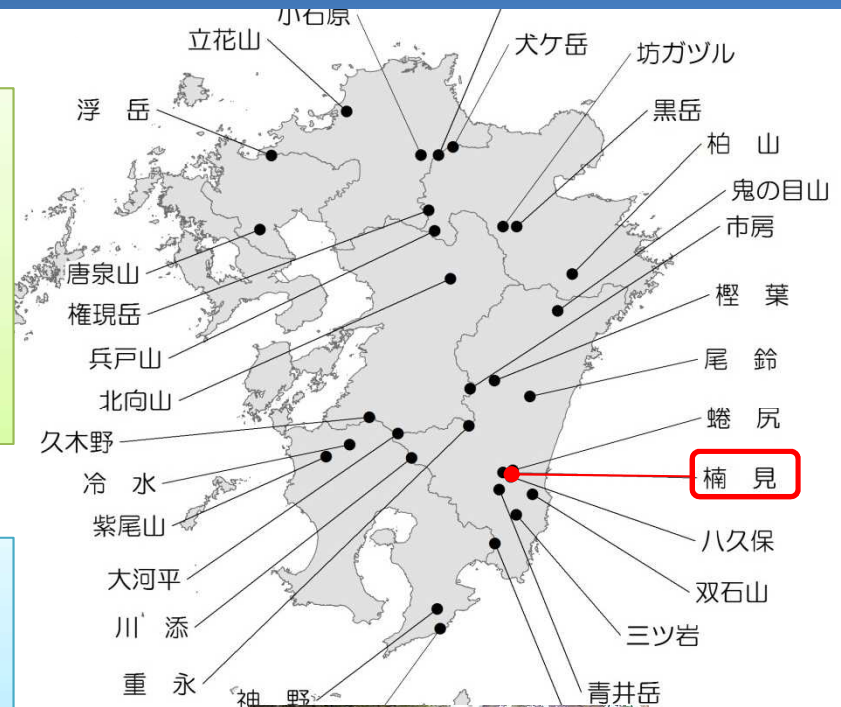
【調査年月】平成23年10月

【調査結果(被害状況等)】

シカの生息状況として、古いシカのツトギ跡、樹皮剥ぎ及びアオキの食害が確認された。新しいものでは、発情期によく行われる引っ掻き跡が確認された。シカ以外の動物は、確認されなかった。

森林管理(支)署等による現況把握

今後状況把握を行う予定。



林内の状況(イチイガシの巨木)

大根地植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】3.2ha

【設定当時の森林概況】

林相は、カシ類、タブノキその他天然林広葉樹林である。
林内には大根地神社があり、保護林は神社の風致維持のため重要である。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成22年12月

【調査結果(被害状況等)】

林冠層にはアカガシ等が多く生育する状況が確認できた。また、林内には、ヤブツバキ、アオキ等の中小径木が比較的多く見られた。直径階別本数分布は、天然生異齢林の特徴であるL型分布を示していた。階層構造は低木層の生育が乏しいが概ね発達がみられた。

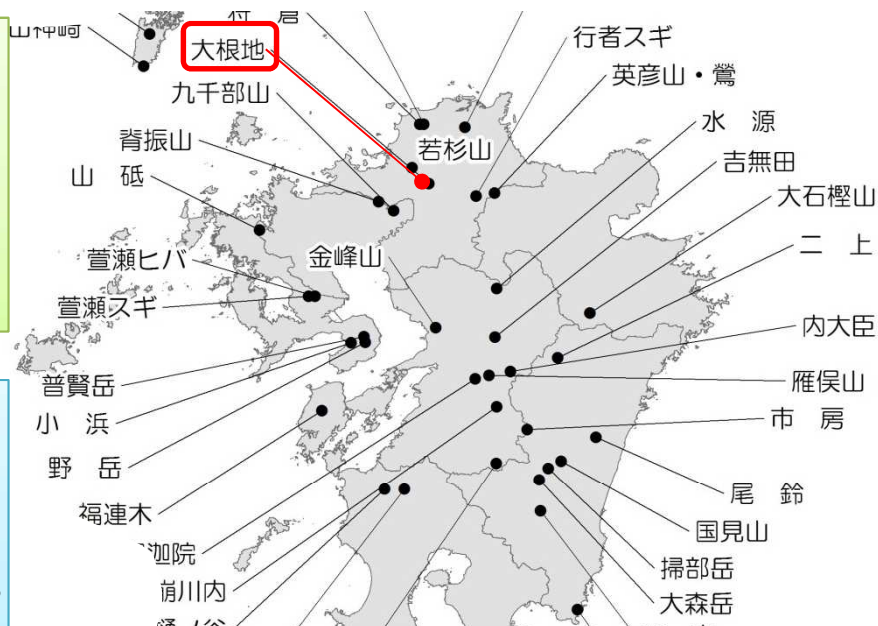
後継個体は比較的多く見られた。プロットNo.1は、次世代はアカガシ、タブノキが優占する林分になると推定された。プロットNo.2は、アカガシの後継個体がみられず、次世代の林相推定しがたい林分があった。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林地・生育状況に、異常は見受けられない。



林内状況

若杉山植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】3.7ha

【設定当時の森林概況】

林相は、英彦山や行者スギと共に老齢大径木を主体とした林分であり、「森の巨人たち100選」に選ばれた「若スギトウダの二又」がある。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成25年11月

【調査結果(被害状況等)】

胸高直径100cmに近く、樹高30mを超えるスギ大径木が林冠を覆っている。スギの生育は全般的に健全であるが、幹折れ木や倒木も確認された。

平成20年調査結果に比較して、本数及び胸高断面積合計ともに増加していた。

シカの被害及び痕跡は確認されなかった。

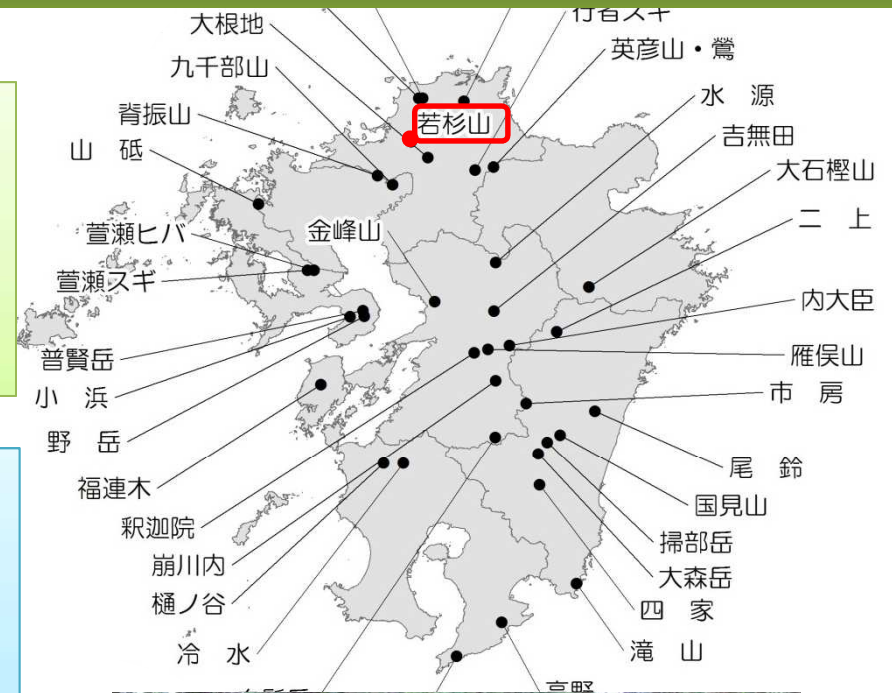
希少な植物はアケボノシュスラン、エビネ属の一種が確認された。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林地・生育状況に、異常は見受けられない。



林内状況

脊振山植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】4.6ha

【設定当時の森林概況】

林相は、スギ、ブナ、シデ、カエデ等の広葉樹林である。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成26年9月

【調査結果(被害状況等)】

高木層にはスギの大径木やアカガシ、ブナが確認され、亜高木層～低木層には常緑広葉樹と落葉広葉樹が混生し、林床にはササ類が優占していた。

平成21年度調査時から比較すると、1箇所では樹木の成長量及び確認本数の増加が確認され、1箇所ではほとんど変化は見られなかった。幹折れした立木が確認されたことから、風による被害が懸念される。

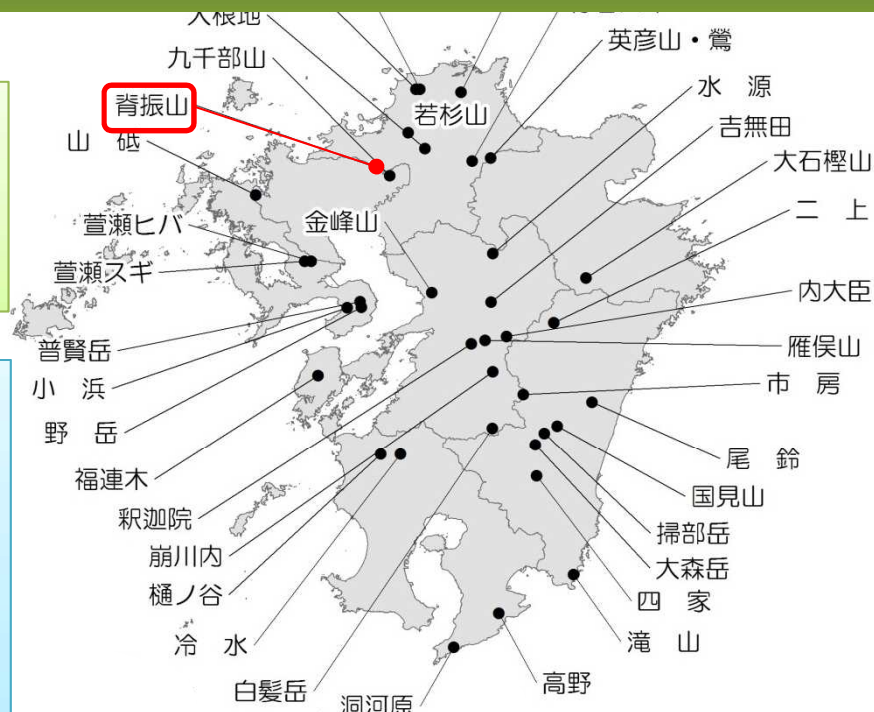
シカが好むスズタケやアオキの優占度が高く、被害も確認されないことから、シカは未侵入と判断される。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林地・生育状況に、異常は見受けられない。



林内状況

山砥植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】1.4ha

【設定当時の森林概況】

林相は、広葉樹の天然林である。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成22年12月

【調査結果(被害状況等)】

林冠層にはスダジイ等が多く生育する状況が確認できた。また、林内には、ヤブツバキ、ヤブニッケイ等の中小径木が比較的多くみられた。各調査プロットにおける直径階別本数分布は、天然生異齢林の特徴であるL型分布を示していた。階層構造は低木層の生育が乏しいが概ね発達がみられた。

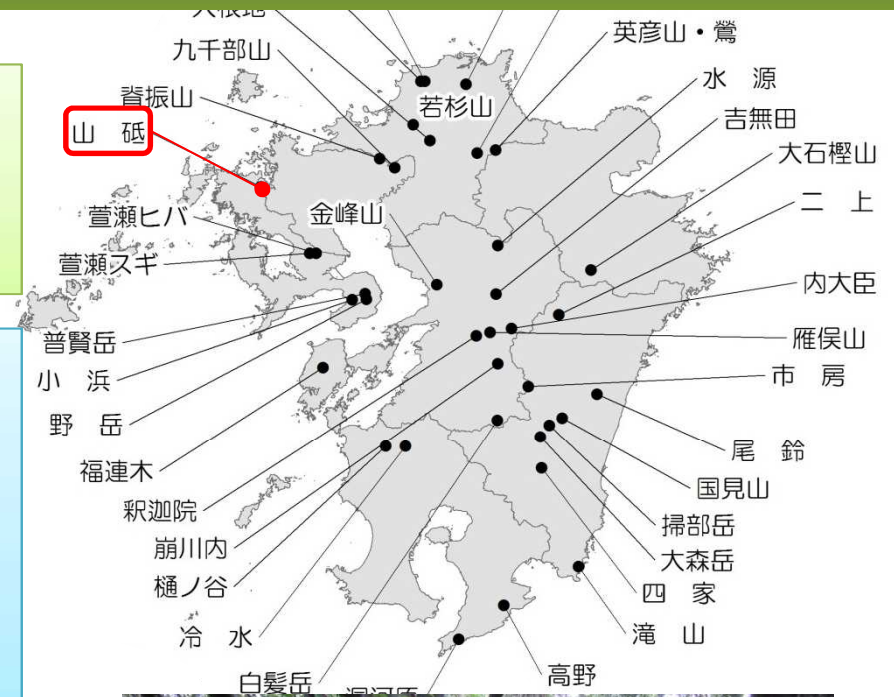
後継個体は豊富であった。次世代もスダジイやタブノキの優占する林分になると推定された。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林地・生育状況に、異常は見受けられない。



林内状況

萱瀨スギ植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】3.7ha

【設定当時の森林概況】

林相は、萱瀨スギは老齡林であり、林齡240年生以上、径級40～130cmで、樹冠は幾分疎開している。平成12年4月に萱瀨スギ(樹高47m、幹周490cm、樹齡240年生)が「森の巨人たち100選」に選ばれた。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成26年9月

【調査結果(被害状況等)】

スギ大径木が高木層を構成し、亜高木層～低木層にタブノキ、ウラジロガシ、アオキ、イヌビワ、ハマクサギ、ケヤキ、ホソバタブ等が見られた。草本層はシダ類やアオキ、エゴノキ等の幼木が確認されたが、スギの幼木は確認されなかった。

平成21年度調査時から比較すると、樹木の成長量に増加が見られたが、確認本数に変化はなかった。「森の巨人たち100選」に選ばれたスギ巨木も成長量に増加が見られた。

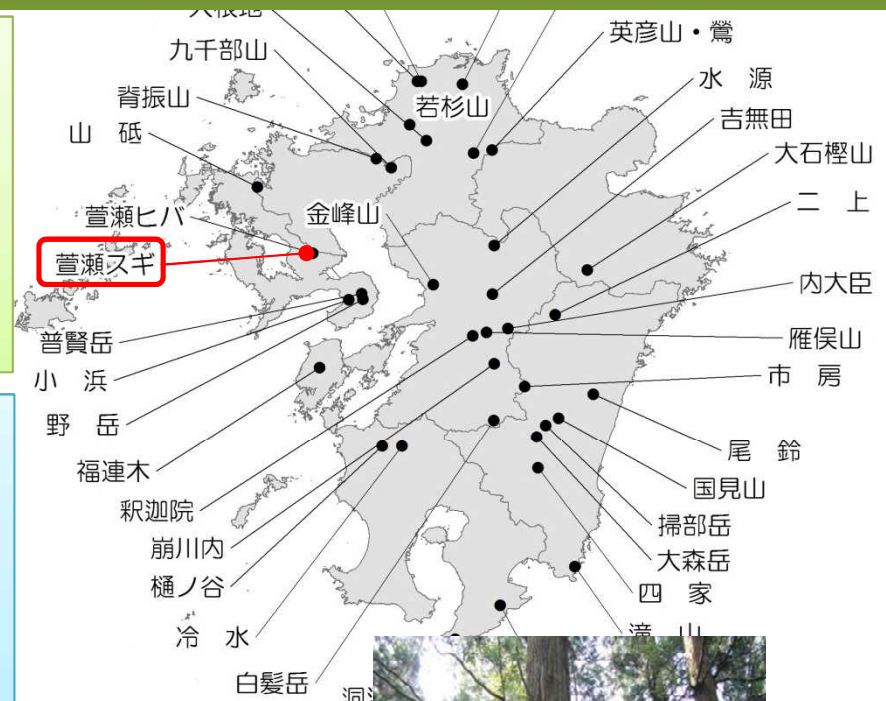
シカの痕跡は確認されず、シカの嗜好性植物のアオキが健全であることから、未侵入と判断される。

森林管理(支)署等による現況把握

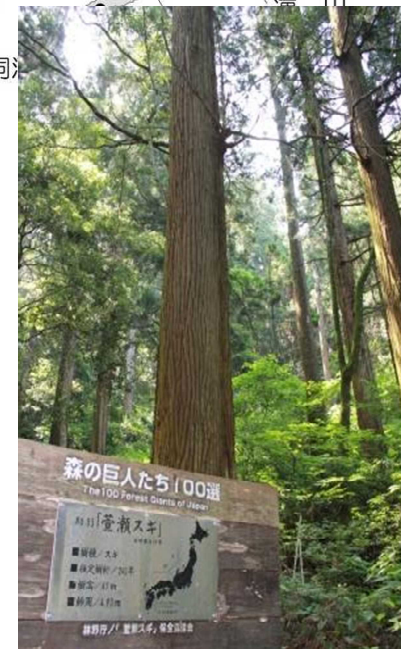
【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

245年生以上の老齡のスギ人工林で幾分樹幹は疎開している。下層木として落葉・常緑の灌木類が侵入している。生育状況は良好である。



瀨切川ヤクタネ



林内状況
(萱瀨スギ)

萱瀨ヒバ植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】0.3ha

【設定当時の森林概況】

林相は、ヒバ林となっているが本数は少なく、スギ、ヒノキ、イヌマキが混生している。ヒバは心腐れのものが多く、成長量も極めて僅かである。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成26年9月

【調査結果(被害状況等)】

ヒバ大径木が林冠を形成しており、その中でヒバの樹冠ギャップを埋めるようにイヌマキが混生する。亜高木層は本数が少なくヤブニッケイが優占し、低木層はイヌマキとアオキが優占する他、シロダモやヤブニッケイなどの常緑広葉樹が混生している。草本層はミヤマトベラやイヌマキ、アオキ、シロダモなどの幼木、イノデやイワガネソウも見られるが、ヒバの幼木は確認されなかった。

平成21年度調査時から比較すると、樹木の成長量及び確認本数に増加がみられた。

シカの痕跡は確認されず、シカの嗜好性植物とされるアオキ、イノデが健全に生育していたことから、シカの侵入はないものと判断される。

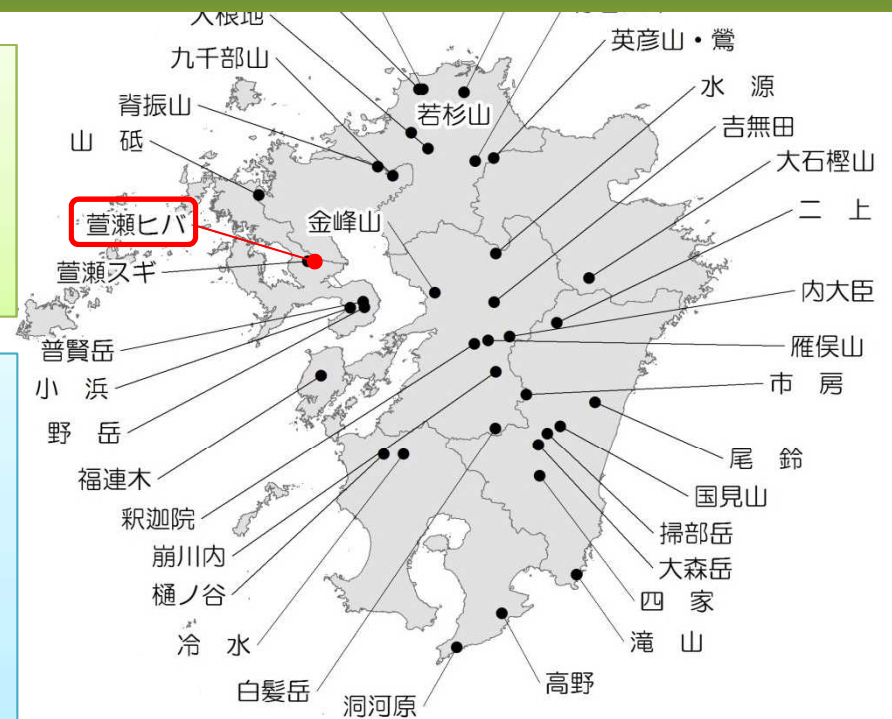
希少な植物として、エビネ属の一種がプロット内で確認された。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

ヒバ人工林でイヌマキ、スギ、ヒノキが混交している。ヒバは心腐れのものが多い状況であり、成長量も極めて少ない。



林内状況

小浜植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】3.1ha

【設定当時の森林概況】

林相は、人工造林によるクスノキが9割を占めている。その外にタブノキ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、サザンカ、アラカシ、シキミ等も見られる。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成26年9月

【調査結果(被害状況等)】

クスノキの大径木が高木層を形成し、その他にタブノキやアラカシ、ムクノキが生育している。亜高木層～低木層はヤブツバキ、ヤブニッケイ、アオキが優占し、草本層はアオツツラフジ、ヘラシダ、ノシラン、シロダモ、アオキ等が確認された。

平成21年度調査時から比較すると、樹木の成長量及び確認本数に増加が見られた。

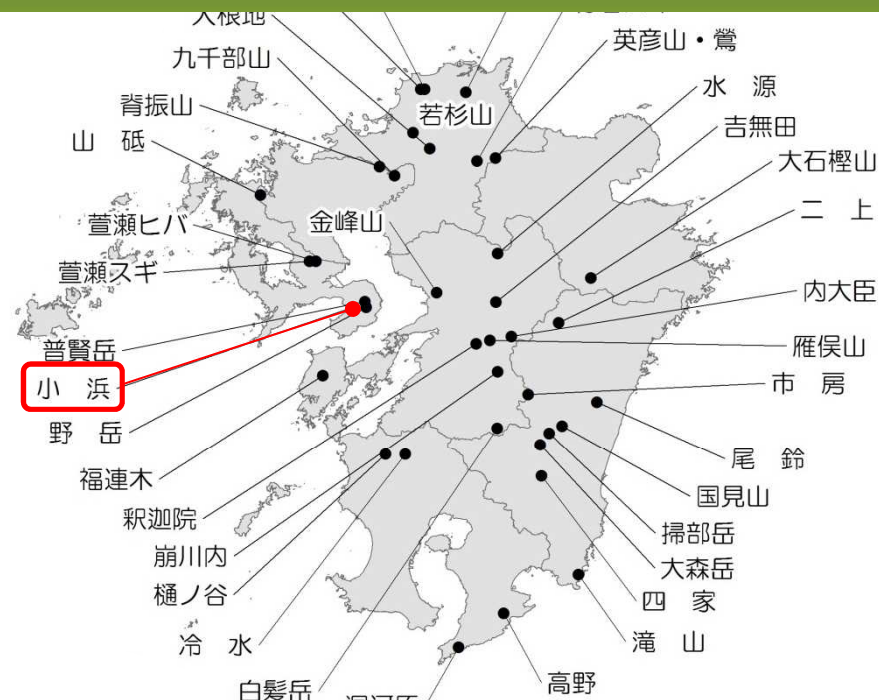
シカによる被害は確認されず、シカの嗜好性植物とされるアオキの優占度が高いことから、シカは未侵入と判断される。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林況については、風倒木の被害や老齢による枯木があり、クスノキの大径木は減少している状況。下層植生については、旺盛である。



林内状況

金峰山植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】2.4ha

【設定当時の森林概況】

林相は、スギ人工林、ヒノキ天然林となっており、一部にサワラや野生化した薬用植物テンダイウヤク等も見られる。これらの立木は旧藩時代に天然生稚樹を畑地に床替え養成し、植林したのが始まりと伝えられている。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成25年9月

【調査結果(被害状況等)】

樹高が30mを超えるスギ・ヒノキ・サワラが林立する林分となっており、亜高木層にアラカシ、タブノキ、オガタマノキ、クロキ等、低木層～草本層にイヌビワ、アオキ等が確認された。

平成20年調査結果に比較して、胸高直径に微増が確認されるものの、大きな変化は確認されなかった。また、モウソウチクの徐伐が行われており、林内環境は改善されていた。

シカの食痕及び糞は確認されなかった。

希少な植物としては、ヒメハシゴシダ、マテバシイが確認された。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林況については、近隣小班の竹による侵食が見られるものの、おおむね生育良好である。

平成3年度台風の風害箇所にもウソウチクが進入してきている。



林内状況

水源植物群落保護林

【設定年月日】昭和39年3月31日

【面積】1.1ha

【設定当時の森林概況】

林相は、旧藩時代に植栽されたスギとヒノキ(ナンゴウヒ)で、直挿と挿木苗を植栽したと見られている。現況は、スギ・ヒノキ老齢林の保存のため多くの再生事業が行われている。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成25年9月

【調査結果(被害状況等)】

高木層にヒノキ・スギが林立した林分で、胸高直径が最大で117.6cm、樹高が最大で37.9mであった。亜高木層にはオオモミジ、カゴノキ、シロダモ、ヤブニッケイ等が見られた。低木層～草本層では、アオキの優占が見られた。

平成20年調査結果に比較して、本数で減少しているが、胸高断面積合計では増加していた。

シカの被害及び糞は確認されなかった。

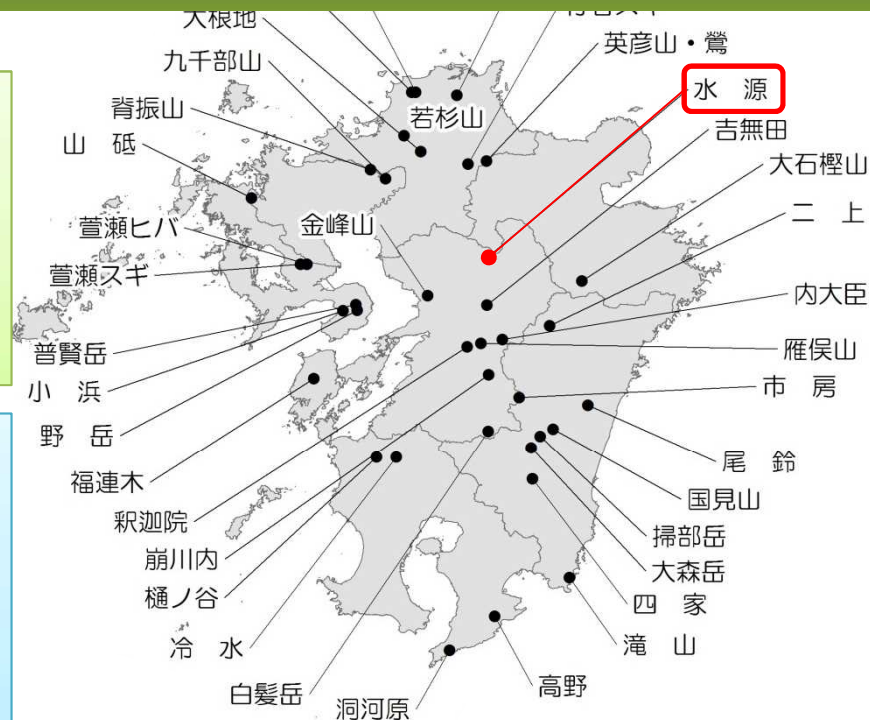
希少な植物としては、ナツエビネ、モミジコウモリ、ヒメハシゴシダ、ヤマトウバナが確認された。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林況については、シカ等による食害もなく、生育良好である。



林内状況

四家植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】2.0ha

【設定当時の森林概況】

林相は、イチイガシの造林地で、林齢は130年生以上となっている。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成23年9月

【調査結果(被害状況等)】

イチイガシの巨木が高木層を優占する状況が確認された。また、林内には、ホソバタブ、イヌビワ、ヤマビワ等の中小径木が比較的多く見られた。階層構造は、比較的良好であった。ガンゼキラン、エビネが確認された。

シカのフィールドサインは全く見られなかった。アオキ等の嗜好植物が多く生育していた。シカ以外の動物も確認されなかった。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

保護対象木であるイチイガシについては、数本枯れがあるが、成長は良好である。



林内状況
(イチイガシ)

滝山植物群落保護林

【設定年月日】平成5年3月31日

【面積】4.7ha

【設定当時の森林概況】

林相は、アラカシ、シイ類その他の天然生広葉樹林である。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成24年11月

【調査結果(被害状況等)】

植物群落保護林として、常緑樹が高木種～低木種まで多種確認され、主な林冠構成種の後継個体も生育していることから、比較的良好な樹林と考えられる。

シカによる森林被害状況は、剥皮被害も確認されていないことから、現状においてシカによる森林被害のない良好な樹林地と考えられる。

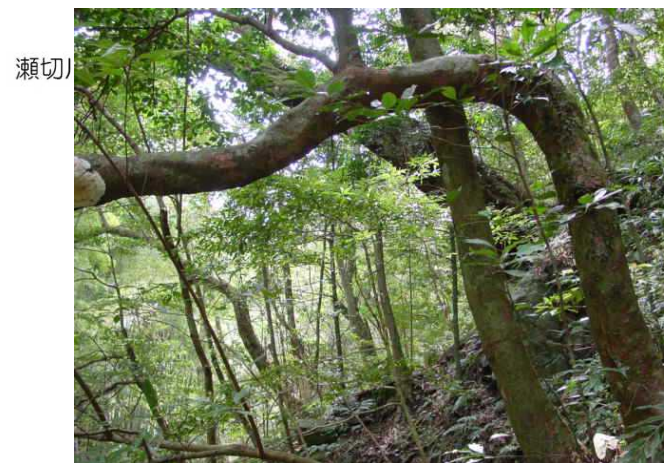
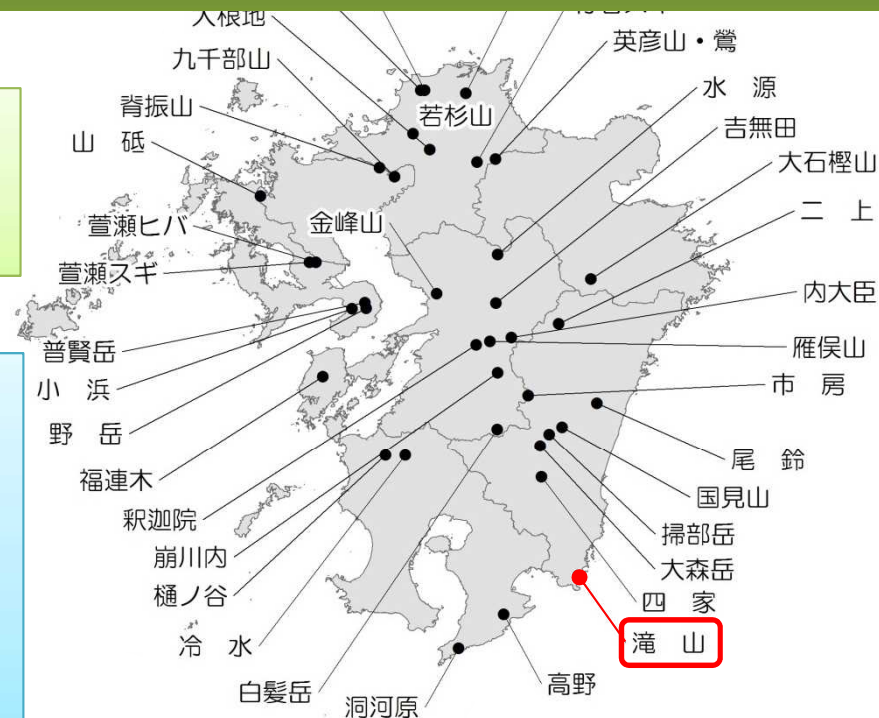
森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

保護対象木であるシイ類に、一部カシノナガキクイムシによると思われる枯損木が見られるものの、林内の生育は良好である。

また、高木樹種の稚樹の生育も確認でき、良好な林相を呈している。



林内状況

冷水植物群落保護林

【設定年月日】平成3年3月31日

【面積】1.3ha

【設定当時の森林概況】

林相は、川内川流域に多く分布するカシ類、シイ類を主体とする広葉樹林で暖帯林の代表的林分である。また、林内には我が国における保護上重要な植物(レッドデータブック)において「絶滅危惧IB類」に位置づけられるサツマシダ、コマチイワヒトデをはじめ、エダウチホングウシダ、ホソバイタチシダ、ツルホラゴケ等約70種類のシダが生育しており、貴重な地域である。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成24年8月、11月

【調査結果(被害状況等)】

保護対象林分のツクバネガシやツブラジイといったシイ・カシ類は後継個体の生育が確認され、保存対象種のサツマシダも少数ながら生育していた。安定的な極相林の様相を呈しているが、シカによる林床植生への被害がみられることから良好な樹林環境とは言い難い。

シカによる森林被害状況は、不嗜好性植物の侵入・優占がみられることから、将来的に林床植生の減少、裸地化が進み、樹木の剥皮被害も増加する可能性がある。

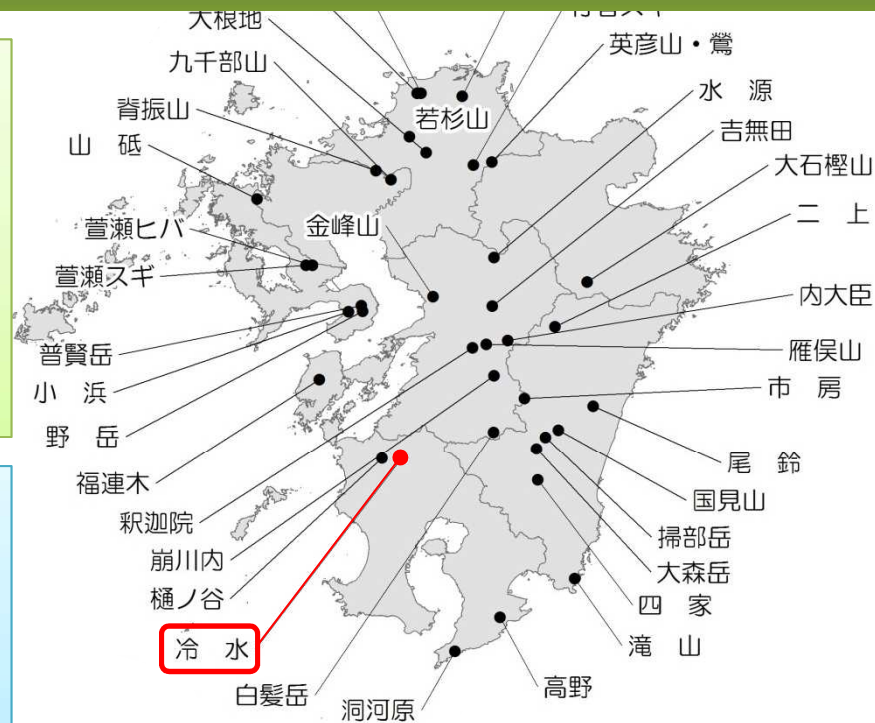
森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林況については、シカの食害があり、下層植生は少ない状況である。

保護対象のサツマシダについては、学識者でなくては識別が難しい状況にある。



林内状況

樋之谷植物群落保護林

【設定年月日】平成3年3月31日

【面積】3.3ha

【設定当時の森林概況】

林相は、スギ、シイ・カシ類の混交林である。地被植物はシダ類が主で種類も多く、特に「ヒノタニシダ」は林内に点々と存在が確認されている。

ヒノタニシダは、レッドデータブックの絶滅危惧IB類に分類されており、都道府県別分布では主に鹿児島で数百個体が確認されている。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成24年8月～9月

【調査結果(被害状況等)】

保存対象種であるヒノタニシダは群落を形成しているが、シカによる林床植生への被害がみられることから良好な樹林環境とは言い難い。ヒノタニシダの重要な生育地であるが、シカによる森林被害が拡大し、林床の光環境の変化や林内の乾燥化等による影響が懸念される。

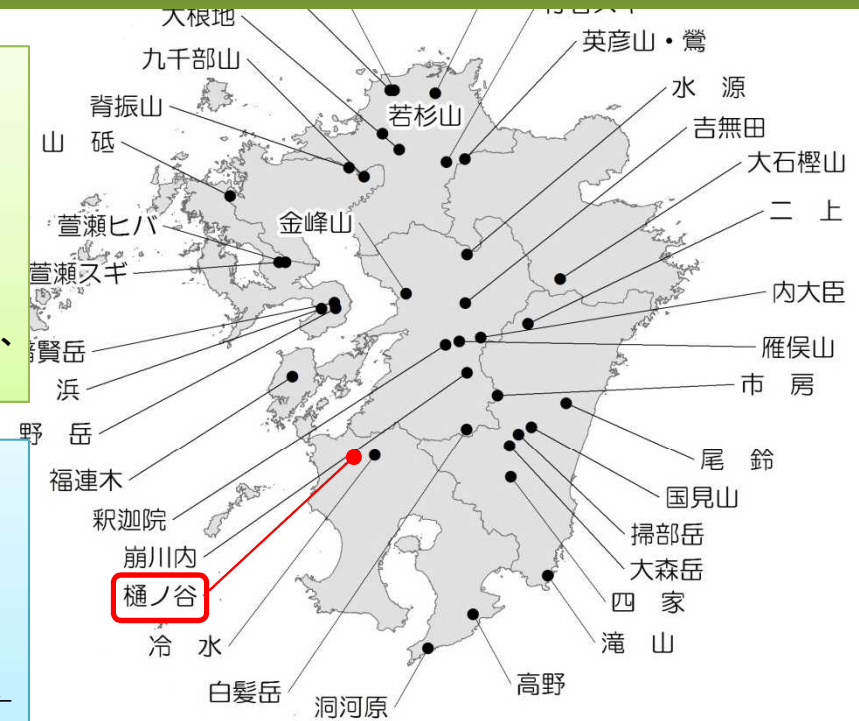
シカによる森林被害状況は、不嗜好性植物の優占がみられることから、シカによる林床への食害が拡大している地域と考えられ、スギへの剥皮被害の発生や広葉樹の後継個体への食害や剥皮被害の増加が懸念される。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

林況については、シカの食害があり、下層植生は少ない状況である。保護対象のヒノタニシダについては、学識者でなくては識別が難しい状況にある。



林内状況(ヒノタニシダ)

船浦ニツパヤシ植物群落保護林

【設定年月日】平成15年3月25日

【面積】4.4ha

【設定当時の森林概況】

林相は、樹高が約5mのオヒルギを優占種とし、ヤエヤマヒルギ、シマシラキの混生したマングローブ林が発達している。

直近のモニタリング調査結果

【調査年月】平成27年9月

【調査結果(被害状況等)】

ニツパヤシの葉長が伸び、葉の数も増えたことにより、ここ数年は光環境に変化がない状態となっており、調査地全体としてはニツパヤシにとっては良好な光環境が保たれていると考えられる。

地盤高の上下幅は全体的にわずかで、大きな変化はないと思われる。

森林管理(支)署等による現況把握

【調査年月】平成28年9月～10月

【調査結果(被害状況等)】

周辺のおヒルギ等がニツパヤシを覆い光条件の悪化が危惧されたことから、平成17年と平成19年2回、に分け周辺おヒルギ等の除伐を実施。

除伐後の平成24年には、開けた林内に日が差し込みおヒルギ等の枯損が発生。現在ではおヒルギ等の稚樹の発生が多く見受けられる。

除伐を実施したことにより、ニツパヤシの幼葉の発生も数多く見られ、葉の増加が確認される等、ニツパヤシの安定した成長が見られる。

地盤高には大きな変化はないものの、アナジャコの塚の盛り上がりが見受けられ、今後、陸地化していくことが危惧される。



林内状況(ニツパヤシ)